

情報公開用文書

2025 年 12 月 19 日作成

研究課題名	救急外来発熱患者における熱源同定のためのバイオマーカー探索研究
研究の対象	主な対象は、横浜市立大学附属病院などの共同研究機関の救急外来を受診された18歳以上の患者様です。感染症で入院された方については、発症後2～4週目の血液も対象となります。また、正常な状態と比較するために、バイオバンクに既に保管されている健常な方の血液や、正常な臓器組織も研究対象として使用します。
バイオバンクから提供する検体	組織 24人 検体採取日 2007年5月1日～2009年10月31日 2010年7月1日～2012年8月31日 2013年2月1日～2015年8月31日
研究目的・方法	本研究は、発熱した患者様の血液検査のみで、「どの臓器に感染が起きているか(肺炎、腎盂腎炎など)」を迅速に推定できる新しい診断法の開発を目的としています。近年、症状を明確に訴えられない高齢の患者様が増え、感染源の特定が難しくなっています。その結果、診断の遅れや、あらゆる菌に効く抗菌薬の過剰使用による耐性菌(薬が効かない菌)の出現が社会的な問題となっています。そこで本研究では、感染時に傷ついた臓器から特有のタンパク質が血液中に漏れ出し、それに対して一時的に「抗体」が作られる身体の仕組みに着目しました。バイオバンクに保管されている正常な臓器組織や健常な方の血液と、実際の患者様の血液を詳細に比較・解析します。これにより、感染した臓器ごとに特徴的に増える物質(バイオマーカー)を見つけ出し、早期診断や適切な治療選択に役立つ検査の実用化を目指します。
研究期間	研究期間:研究機関の長の実施許可日～2031年3月31日 予定登録期間:研究機関の長の実施許可日～2030年3月31日
研究に用いる試料・情報の種類	本研究では、救急外来を受診された患者様の血清と、感染症入院後の経過時の血清を使用します。また、比較対照としてバイオバンクに保管されている健常者の血清や正常な臓器組織(肺・腎臓など)も用います。これらに加え、診療録から診断名、血液・画像検査の結果、治療内容などの情報を収集し、解析データと照合します。
バイオバンクから提供する情報の種類	年齢、性別、検体採取日
お問い合わせ:	
○研究に関することは 研究責任者へ	所属: 横浜市立大学附属病院救急科 氏名: 大井康史 メール: yasui7oi@yokohama-cu.ac.jp 電話: 045-787-2800
○研究への利用を拒否する場合は 横浜市立大学附属病院 バイオバンク室 事務局 メール:sentanbb@yokohama-cu.ac.jp 電話:045-787-2800	

一部変更あり

情報公開用文書

2026 年 9 月 16 日作成

研究課題名	救急外来急性期患者における障害臓器同定のためのバイオマーカー探索研究
研究の対象	主な対象は、横浜市立大学附属病院などの共同研究機関の救急外来を受診された18歳以上の患者様のうち、急な病気やけがで臓器の障害が疑われた方です。臓器の障害で入院された方は、発症後14～28日目の血液も対象となります。また、比較のためにバイオバンクの健常な方の血液や正常な臓器組織も使用します。
バイオバンクから提供する検体	組織 24人 検体採取日 2007年5月1日～2009年10月31日 2010年7月1日～2012年8月31日 2013年2月1日～2015年8月31日
研究目的・方法	本研究は、救急外来の患者様の血液検査だけで、「どの臓器が傷ついているか」を迅速に推定できる新しい診断法の開発を目的としています。近年、症状を明確に訴えられない高齢の患者様が増え、原因臓器の特定が難しくなっています。その結果、診断の遅れや、抗菌薬の過剰使用による耐性菌(薬が効かない菌)の出現が社会的な問題となっています。本研究では、傷ついた臓器から特有のタンパク質が血液中に漏れ出し、それに対し一時的に「抗体」が作られる仕組みに着目しました。この現象は感染症だけでなく、血流の途絶、けが、熱中症、血管内治療後など、急に臓器が傷つく病気で広く起こります。バイオバンクの正常な臓器組織や健常な方の血液と、患者様の血液を比較・解析し、傷ついた臓器ごとに特徴的に増える物質(バイオマーカー)を見つけ出して、早期診断や治療選択に役立つ検査の実用化を目指します。
研究期間	研究期間:研究機関の長の実施許可日～2031年3月31日 予定登録期間:研究機関の長の実施許可日～2030年3月31日
研究に用いる試料・情報の種類	本研究では、救急外来を受診された患者様の血液(血清・血漿・全血)と、臓器の障害で入院された方の経過時の血液を使用します。比較対照としてバイオバンクの健常者血清や正常な臓器組織(肺・腎臓など)も用います。加えて診療録から診断名、検査結果、治療内容などの情報を収集し、解析データと照合します。
バイオバンクから提供する情報の種類	年齢、性別、検体採取日、一部の検体は血液型、疾患名、既往症、化学療法、放射線治療、免疫制御療法、喫煙歴、飲酒歴、中毒、薬剤治療、麻酔薬、病原微生物検査、病理診断情報
お問い合わせ:	
○研究に関することは 研究責任者へ	所属: 横浜市立大学附属病院救急科 氏名: 大井康史 メール: yasuo7oi@yokohama-cu.ac.jp 電話: 045-787-2800
○研究への利用を拒否する場合は 横浜市立大学附属病院 バイオバンク室 事務局 メール:sentanbb@yokohama-cu.ac.jp 電話:045-787-2800	

追加提供

情報公開用文書

2026 年 9 月 29 日作成

研究課題名	救急外来急性期患者における障害臓器同定のためのバイオマーカー探索研究
研究の対象	主な対象は、横浜市立大学附属病院などの共同研究機関の救急外来を受診された18歳以上の患者様のうち、急な病気やけがで臓器の障害が疑われた方です。臓器の障害で入院された方は、発症後14～28日目の血液も対象となります。また、比較のためにバイオバンクの健常な方の血液や正常な臓器組織も使用します。
バイオバンクから提供する検体	組織 5人 検体採取日 2010年10月1日～2010年10月31日 2011年7月1日～2011年7月31日 2013年2月1日～2013年3月31日
研究目的・方法	本研究は、救急外来の患者様の血液検査だけで、「どの臓器が傷ついているか」を迅速に推定できる新しい診断法の開発を目的としています。近年、症状を明確に訴えられない高齢の患者様が増え、原因臓器の特定が難しくなっています。その結果、診断の遅れや、抗菌薬の過剰使用による耐性菌(薬が効かない菌)の出現が社会的な問題となっています。本研究では、傷ついた臓器から特有のタンパク質が血液中に漏れ出し、それに対し一時的に「抗体」が作られる仕組みに着目しました。この現象は感染症だけでなく、血流の途絶、けが、熱中症、血管内治療後など、急に臓器が傷つく病気でも起こります。バイオバンクの正常な臓器組織や健常な方の血液と、患者様の血液を比較・解析し、傷ついた臓器ごとに特徴的に増える物質(バイオマーカー)を見つけ出して、早期診断や治療選択に役立つ検査の実用化を目指します。
研究期間	研究期間:研究機関の長の実施許可日～2031年3月31日 予定登録期間:研究機関の長の実施許可日～2030年3月31日
研究に用いる試料・情報の種類	本研究では、救急外来を受診された患者様の血液(血清・血漿・全血)と、臓器の障害で入院された方の経過時の血液を使用します。比較対照としてバイオバンクの健常者血清や正常な臓器組織(肺・腎臓など)も用います。加えて診療録から診断名、検査結果、治療内容などの情報を収集し、解析データと照合します。
バイオバンクから提供する情報の種類	年齢、性別、検体採取日、一部の検体は血液型、疾患名、既往症、化学療法、放射線治療、免疫制御療法、喫煙歴、飲酒歴、中毒、薬剤治療、麻酔薬、病原微生物検査、病理診断情報
お問い合わせ:	
○研究に関することは 研究責任者へ	所属: 横浜市立大学附属病院救急科 氏名: 大井康史 メール: yasu7oi@yokohama-cu.ac.jp 電話: 045-787-2800
○研究への利用を拒否する場合は 横浜市立大学附属病院 バイオバンク室 事務局 メール: sentanbb@yokohama-cu.ac.jp 電話: 045-787-2800	